

2019年4月27日（土）熊本デルサにて医師17名、全体では39名の参加で開催しました。

光永県連会長より、「5月に元号が変わることで世の中が過剰なほど騒々しくなっている。震災から3年目。復興にむけた民医連の支援の取り組みがますます重要になっていく。全日本から発信された『未来に向かって民医連の医師と医師集団は何を大切にするのか』は今まさに私たちがしっかりと受け止める文書です。ともに学びましょう。」

記念講演では、全日本民医連副会長・福岡医療団千鳥橋病院院長の山本一視医師より、「未来に向かって民医連の医師と医師集団は何を大切にするのか」と題してお話しがありました。参加者からは、「民医連のめざす方向を学び、議論するきっかけとなつたと感じた」「民医連の医療活動を理論的にわかりやすく語つていただきたい」「普段の医療活動の中で目の前のことに精一杯だったが自分なりにハッとする気づきがたくさんありました」「自分がどうしていくべきか、どうしたいかをよく考え

2019年4月27日（土）熊本デルサにて医師17名、全体では39名の参加で開催しました。

光永県連会長より、「5月に元号が変わることで世の中が過剰なほど騒々しくなっている。震災から3年目。復興にむけた民医連の支援の取り組みがますます重要になっていく。全日本から発信された『未来に向かって民医連の医師と医師集団は何を大切にするのか』は今まさに私たちがしっかりと受け止める文書です。ともに学びましょう。」

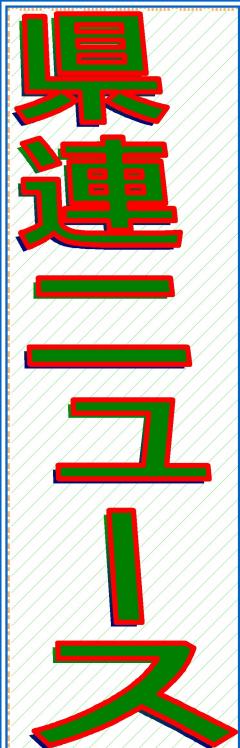
記念講演では、全日本民医連副会長・福岡医療団千鳥橋病院院長の山本一視医師より、「未来に向かって民医連の医師と医師集団は何を大切にするのか」と題してお話しがありました。参加者からは、「民医連のめざす方向を学び、議論するきっかけとなつたと感じた」「民医連の医療活動を理論的にわかりやすく語つていただきたい」「普段の医療活動の中で目の前のことに精一杯だったが自分なりにハッとする気づきがたくさんありました」「自分がどうしていくべきか、どうしたいかをよく考え

2019年4月27日（土）熊本デルサにて医師17名、全体では39名の参加で開催しました。

光永県連会長より、「5月に元号が変わることで世の中が過剰なほど騒々しくなっている。震災から3年目。復興にむけた民医連の支援の取り組みがますます重要になっていく。全日本から発信された『未来に向かって民医連の医師と医師集団は何を大切にするのか』は今まさに私たちがしっかりと受け止める文書です。ともに学びましょう。」

記念講演では、全日本民医連副会長・福岡医療団千鳥橋病院院長の山本一視医師より、「未来に向かって民医連の医師と医師集団は何を大切にするのか」と題してお話しがありました。参加者からは、「民医連のめざす方向を学び、議論するきっかけとなつたと感じた」「民医連の医療活動を理論的にわかりやすく語つていただきたい」「普段の医療活動の中で目の前のことに精一杯だったが自分なりにハッとする気づきがたくさんありました」「自分がどうしていくべきか、どうしたいかをよく考え

2019年春期医師部会を開催しました



発行者：木原 望

TEL : 096-387-2826
FAX : 096-381-5442

ていいきたいと思いました」など多くの感想が寄せられました。

大石理事長より法人経営報告、重岡医師委員長より医師委員会の2018年度総括、2019年度方針が報告され、確認しました。

その後のグループディスカッション（4班）では①山本一視医師の講演を聞いての感想交流②熊本県民医連の医師集団として何を大切にしているか、いくのか③今後の熊本県民医連の医師集団として具体的な行動提起の3テーマを中心に各班で約1時間討論を行いました。今回は医師の世代別の班分けを意識して近況報告をふくめて非常に活発な議論が行われました。

第36回憲法まもる 熊本県民のつどい



懇親会では田島栄治医師が挨拶の中で医師をめざした過程やプロフィールが述べられました。会は終始和やかな雰囲気で行われた。

10連休の真っただ中の5／3にパレアホールでつどいが開催され、約350人が参加しました。今回のつどいは参議院選挙に立候補を表明しているあべ広美弁護士の基調講演と、「自分らしく生きるために憲法をどう活かすのか」をテーマにした10～20代の学生らによるパネルディスカッションでした。

最後の集会宣言は菊陽病院の米村美幸さんが読み上げ、拍手で確認。一人ひとりが「どんな人生を生きたいのか？」そのためにどんな社会を「いきたいか？」を考えていく大切さに、あらためて気がつく集会になりました。

意見が出されました。

最後の集会宣言は菊陽病院の米村美幸さんが読み上げ、拍手で確認。一人ひとりが「どんな人生を生きたいのか？」そのためにどんな社会を「いきたいか？」を考えていく大切さに、あらためて気がつく集会になりました。



事務局長 木原望

今後の展望を感じる部会となりました。
医師委員会事務局 井上晋

今、何ができるかを一人ひとりが考え、ここからもう一度つくりていこうと呼びかけました。パネルディスカッションでは、「今の日本は若者にとって生きやすい社会なのか?」「自分らしさとは何か?」「どうしたら若者はもつと投票に行くのか?」について議論。「憲法は空氣のようなものとの話があつたが、差別を受けるもの、マイノリティーにとつて憲法は身近なもの。憲法のありがたさに気づく。」や「なんで共生できないのか。違いを排除して、均質の集まりになり、均質の中で小さな違いを見つけて、また差別する。大人がいじめ社会だから子どももいじめ社会になる。」「投票に行くためには憲法教育をしっかりと行い、権利を持つことに対する興味を持つと同時に、相手にも権利があることに気がつくこと。政治を大衆化していくこと。」などの意見が出されました。

最後の集会宣言は菊陽病院の米村美幸さんが読み上げ、拍手で確認。一人ひとりが「どんな人生を生きたいのか？」そのためにどんな社会を「いきたいか？」を考えていく大切さに、あらためて気がつく集会になりました。

今、何ができるかを一人ひとりが考え、ここからもう一度つくりていこうと呼びかけました。パネルディスカッションでは、「今の日本は若者にとって生きやすい社会なのか?」「自分らしさとは何か?」「どうしたら若者はもつと投票に行くのか?」について議論。

「憲法は空氣のようなものとの話があつたが、差別を受けるもの、マイノリティーにとつて憲法は身近なもの。憲法のありがたさに気づく。」や「なんで共生できないのか。違いを排除して、均質の集まりになり、均質の中で小さな違いを見つけて、また差別する。大人がいじめ社会だから子どももいじめ社会になる。」「投票に行くためには憲法教育をしっかりと行い、権利を持つことに対する興味を持つと同時に、相手にも権利があることに気がつくこと。政治を大衆化していくこと。」などの意見が出されました。

最後の集会宣言は菊陽病院の米村美幸さんが読み上げ、拍手で確認。一人ひとりが「どんな人生を生きたいのか？」そのためにどんな社会を「いきたいか？」を考えていく大切さに、あらためて気がつく集会になりました。